

税理士の ひとりごと

No. 104

泣いても一生、笑っても一生

税理士 齋藤明

先日まだ小さい子供を持つ知り合いの女性税理士さんが、「家事と仕事に追われて毎日忙しい」とこぼしていました。確かに繁忙期に、「もう少しキリの良いところまで仕事をしてから帰りたいたい」と思いながら、「でも子供が留守番しているのだから、そろそろ帰宅しないと」と帰り支度をしなくてはならないというのは、さぞかし歯がゆいことでしょう。

その一方で、今、私がしたくてもできないこと、どんなに望んでも叶えることのできない願望は、子供と一緒に同じ食卓を囲んでご飯を食べること。それがたとえお惣菜のコロッケと味噌汁だけの夕飯だって良いのです。子供の学校での出来事や友達の話を楽しそうに話す顔を見ながら食べるご飯はどんなに美味しいことだろうか、と思うのです。

今から20年前、我が家は狭いアパートで家族4人がぎゅうぎゅう詰めにな

って暮らしていました。当時、薬剤師で私よりも稼ぎの良かった妻がフルタイムで働き、税理士試験も科目合格者で安月給だった私が専業主夫をして、毎日私が夕飯をこしらえて、「お母さん、今日は帰りが遅いね」なんて子供と話をしながら夕飯を食べていたのです。

確かにあの頃は経済的にはあまり豊かではありませんでした、今にして思うと、私の最も幸せな時代だったような気がします。それも今となつては、ただただ楽しかった思い出しかありません。

近頃では、テレビをつけるとウクライナ情勢のニュースばかりが流れています。総動員体制が敷かれたウクライナでは18歳から60歳の男性の出国は禁じられており、隣国との国境に向かう列車の発着する駅のホームで自分だけが祖国に残り、妻や子供を国外へ送り出す男性の姿が映されていました。家を爆撃で失い、ただ生き延びることさ

えままならない状況下に置かれたウクライナの人々が、今どれほど。当たり前「日常」を切望していることか、想像するに難くありません。

これまで戦争にも、大きな天災にも遭ったことのない私にとつて、ずっと私の目の前に、それこそ当たり前にあった。当たり前「日常」が「いつか突然に失われることがあるのかもしれない」なんてことは、あまりリアルに想像をすることさえもできません。それでもすっかり平和ボケしている私などは、ただただ漠然と「やっぱり平和が良いなあ」なんて呑気なことをつぶやきながらテレビ画面を眺めているだけでも確実に言えることは、仕事が忙しかろうが、家族がバラバラになつて虚しさを感ぜていようが、日本で日々平和に暮らしている私たちはとても恵まれていて、そして幸せだということですね。

しかし昔の人は、平和の上に胡坐を

かいて安住している我々の私たちの呑気さを知つて知らずか、皮肉タツプりにこんな苦言を呈しています。「好事魔多し（幸せな時に限つて邪魔が入るものである）」。「花に嵐のたよもあるぞ（美しく咲いている花も突然の嵐によつて散つてしまうことがある）」。

確かに、世の中良いことはかりが続き訳ではありません。「いつまでも若いままでいたい」と思つていてもどんどん歳はとるし、事業を成功させている社長だつて「いつ経営が悪化してしまふか分かつたもんじゃない」と心の中で震えているのです。今自分が抱えている幸せがいつかは消えてなくなつてしまふと考えると、恐ろしくて、そして虚しくて、やりきれない気持ちになるのですが、それが現実なのです。

でもご安心ください。昔の人の全員が全員ネガティブな皮肉屋ばかりだつたかという点、そういう訳ではないようで、良いこともツライこともある人

の一生を、力強く前向きに乗り切つてやろうという気概を持った人だつてちやんといたのです。「泣いても一生、笑つても一生、ならば今生泣くまいぞ（坂本龍馬）」。あなたの職場にも一人くらいはいませんか？ いつもヘラヘラしているいつもの上司に怒られている人。もしかするとその頼りないヘラヘラ君は、案外達観した人生の達人なのかもしれませんよ。



Akira Saito

川橋 奈生（1993年生まれ）
士橋 生理士（1995年生まれ）
士橋 生理士（1996年生まれ）
士橋 生理士（1997年生まれ）
士橋 生理士（1998年生まれ）
士橋 生理士（1999年生まれ）
士橋 生理士（2000年生まれ）
士橋 生理士（2001年生まれ）
士橋 生理士（2002年生まれ）
士橋 生理士（2003年生まれ）

【近況】久しぶりにスーツを作りまして3年たつた。お店に残っていたアイテムほとんど変りなし。日頃散々深酒ばかりに（笑）。